

キャン ドウ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2012年6月 [第59号]



- CanDo の活動の方向性** 小学校での緊急の土壌保全と教室補修 永岡 宏昌
ナイロビ便り ソマリアの状況とケニアの治安 永岡 宏昌
インターンを終えて 岡本 優子／三浦 明子／萩生田 愛／水口 夏希
新スタッフの自己紹介 久保内 祥郎
年次総会報告
フォト・レポート ミグワニ県における教室建設と土壌保全
事務局から

写真は、2011年度に教室建設を始めたミグワニ県ムルリニ小学校

小学校での緊急の土壌保全と教室補修

代表理事 永岡 宏昌

2011 年から本格的に事業を開始したミグワニ県では、保護者が建設してから 20 年くらい経過している教室が多く見られ、その補修の要望が、教育官からも学校からも当会にきています。さびて穴が開いている屋根のトタン、あるいはシロアリの被害でもろくなっているはりを替えたい、土間のままの床、レンガの壁にセメントを塗りたいなど、要望の内容はいろいろあります。しかし、雨水によって教室周りの土が流れ去り、基礎が露出していることが課題だと私たちは見ました。その下部の基礎底部までも露出している教室、また、土壌浸食により崩壊したと思われる元教室もありました。

まず、教育官へ問題提起を行ない、教室の健全さを土壌浸食の点から確認する意識を持ってもらいました。その結果、特に深刻な状態にある 2 校に緊急の土壌保全を提案することで合意しました。また、施設の状況を監督する行政職でもある保健官にも、助言を求める体制を作ることになりました。

具体的な作業として、石またはレンガとセメントで防護壁を造って、露出した基礎を土や石で埋め戻していきます。長い年月にわたって土壌浸食を放置していたため、防護壁は高く、埋め戻す容積も膨大となるため、必

要な現地資材は、保護者が学校の周りで手作業で一輪車で集めるだけでは足りません。緊急対応として、資材を運搬するトラックの運賃を当会で負担することとしました。この作業を進めて、教室周りの土壌保全ができれば、次の段階として、教室の構造補修を実施することで合意しています。1 教室あたり 8 本の鉄筋コンクリートの柱を立てて、リングビームでつなぐ形で構造強化を行ないます。

ただ、これまで、土壌保全がなされていないのは、保護者に知識がなかったためではないようです。学校の周りの畑や家を見ると、さまざまな土壌保全が行なわれています。1 校で比較的小さな土壌浸食が起きている場所については、学校が自主的に保全作業を行なうことになり、当会は概要の助言を行なったところ、2 週間で保護者は防護壁を完成させました。

今回は緊急な土壌保全と位置付け、教室補修も実施することを前提に取り組みました。けれども土壌保全自体は必ずしも教室補修と合わせて実施するものではなく、保護者が小規模な活動を自律的・継続的に取り組むことで、土壌浸食を未然に防いでいくことが重要だと考えます。このような形で土壌保全活動の形成を目指していきたいと思います。

ナイロビ便り

ソマリアの状況とケニアの治安

永岡 宏昌

2011 年 9 月ごろから、ソマリア国境に近い海岸部のラム島での外国人観光客、難民キャンプでの NGO スタッフ、と誘拐事件が続きました。

ケニア政府は、ソマリアのイスラム系過激組織が関与していると断定して、10 月 16 日に、ケニア軍が国境に近いソマリア南部に単独で軍事侵攻しました(11 月には、隣国エチオピアが再びソマリアに侵攻)。それ以来、ケニア軍は過激組織の拠点となっている村々を制圧している、との軍事的な成果は発表されていますが、終了の見込みはたっていないようです。

侵攻に関連して、ケニア国内ではソマリア国境に近い地域ばかりでなく、ナイロビでも爆発物による市民への攻撃が 5 件ありました。最初の 2 件は、直後の 2011 年 10 月 24 日。一番新しい爆発事件は、2012 年 5 月 28 日のモイ通りで起こりました。街の中心に位置するバス乗り場、礼拝中の教会、深夜バー、集合商店街で発生しています。ケニア国内どこでも、人が集まる場所は、標的になりうる状況です。

ケニアとソマリアの国境は長く、広大な乾燥地域で、ケニア側にも多くのソマリ人が暮らし、国境を越えて行き来する生業があり

人々の関係があります。ソマリアから爆弾を持ち込む企てがあれば、効果的に防止する術はないように思えます。また、襲撃の実行犯に、ソマリ人もイスラムとも関係が想像できない西ケニアの若者が参加していた事件もあり、実行犯を予想することもできません。過激組織をソマリアの村々で攻撃しても、ケニアでの市民への攻撃の予防にはなりません。

一方、ラムでは緊張が続く状況の中で大規模な港湾開発の計画が進み、2012 年 3 月に、南スーダンからの石油パイプ、そしてエチオピアと結ぶ鉄道を敷設する竣工式が 3 国の首脳の出席のもと実施されました。

開発に関連した土地の利権と政治家との関係なども噂されています。ケニアの国の経済発展のために、ソマリアの市民の暮らしているところにケニア軍が軍事展開し、さらに、ケニアの市民が報復攻撃の対象となった構図のようにもみえます。

この問題の解決は、軍事侵攻ではなく、ソマリアの市民が、平和に牧畜や農業などの生業を営めること、教育や健康が保障されること、これらの実現にケニアが協力することが重要だと思います。

インターンを終えて

忘れられない人—活動に積極的に参加していた HIV 陽性者

岡本 優子

空港に降り立つと5頭のキリンが出迎えてくれた。2011年6月、インターンとしてケニアに到着したとき、私はうれしさと不安でいっぱいだった。半年後、ケニアをたつときには、私の胸は忘れられない出会いや言葉でいっぱいになっていた。

エイズの学習会の参加者の中に忘れられない人がいる。HIV 陽性者の彼女は、子どもたちに感染してほしくないという思いから、活動に積極的に参加していた。彼女が小学校の生徒に発表しているとき、私は誇らしさと尊敬の気持ちを抱いていた。

アフリカに行く前は、彼らは貧しくて「かわいそう」な人たちだとどこかで思っていた。しかし、こうした出会いを通じて、彼らは厳しい環境の中にもいるけれども、自分と「同じ」だという当たり前のことに気づけた。

代表をはじめ日本人スタッフの方からは、アフリカと関わる姿勢を学んだ。きれいごとの通用しない現実を受け入れ、自分たちに出来る最大限の努力をする。その真摯な姿勢を忘れず、私もアフリカと関わっていきたいと思う。

ミグワニ県初の幼稚園教師の保健研修の取り組みが根付くのか…

三浦 明子

私は2011年6月から6か月間、インターンとしてミグワニ県で、前半は小学校教員へのエイズ教育研修、後半は幼稚園教師を対象とした保健とエイズ研修を担当した。

幼稚園教師の研修にあたっては、この県で初めての実施ということもあり、まずは幼稚園を見学し調査を重ね、研修内容を考えることから始めた。日本と異なるさまざまな問題と直面し、この場に合った幼児育成とは何かということに頭を悩ます日々が続いた。

そしてどのような取り組みでも、子どもたち

が健康でないと何もできないことに気付いた。研修では、心も体も元気で勉強に集中できる基礎体力・環境作りを目指すこと。まずは、毎日実践する小さな習慣を根付かせることが大切なのではないか、ということにたどりついた。

この研修で行った取り組みが今後ミグワニ県の幼稚園で一つでも根付くことができるのかはわからない。けれども、私自身がケニアで得た多くの経験は、今後の人生に大きな変化を与えてくれたと思う。

厳しい環境から逃げる人、できることをする人がいるのは共通

はぎうだ めぐみ
萩生田 愛

2011年7月から12月までの約半年間、小学校の教室建設と学校運営能力向上のプロジェクトを、インターンとして担当しました。

ケニアでは、日本のように十分な数の小学校がありません。その結果、家と学校の距離が遠くて通えない子どもがいたり、定員をはるかに超えた数の生徒が、小さな教室でずしづめで勉強していたりします。中には、今にも崩れそうな教室もあります。CanDoは小学校の保護者と一緒に、教室建設を進めています。

地域の大人の中には、もっと真剣に考え

てほしいという人もいました。けれども、厳しい環境に文句を言って逃げる人もいれば、どんなに厳しくとも、今ある自分に感謝して、精いっぱいできることをする人もいます。これは世界共通であり、輝いている人とそうでない人の違いだと感じました。

私が学んだことは、どんな状況でも精いっぱい努力することの大切さです。

今後は微力ながら、アフリカの雇用を増やすための活動を行なっていこうと思っています。

「教室が完成しないというのも一つの結果」という意味を理解

みなくち なつき
水口 夏希

昨年9月から今年3月までの6か月間、インターンとして CanDo の活動に携わらせていただきました。最初の1か月はナイロビでの会計業務に、残り5か月は主にミグワニ県での教育事業と環境事業に関わりました。

現場で活動を始めたころ「教室を完成させることが目的ではない、教室が完成しないというのも一つの結果」という言葉にとっても驚きました。しかし、この6か月間でその意味を理解できたように思います。

問題が起こったとき解決策だけでなく、そ

の原因を保護者の方々と考え、解決していく。問題を乗り越える度に彼らの意欲や結束が高まっていくのが感じられました。実際に活動に参加させていただき、現場でしか見られない重要な変化を目にすることができました。

この6か月間はとて有意義な時間でした。CanDo に出会えたこと、活動に関われたことをうれしく思います。温かく見守りご指導くださった日本人、ケニア人スタッフ、そしてインターンの皆様に心から感謝します。

新スタッフの自己紹介

くぼうち よしお
事務局長 久保内 祥郎



昨年の12月から事務局を担当しています。定年まで業種の異なる3つの一般企業に勤めていました。退職後は自分の目的により近い仕事に就きたいと思っていました。その選択肢の1つだったNPOの道を選び、開発途上国での滞在経験はありませんが、アフリカでの協力活動にかかわることになりました。NPOの響きは、何か新しい地に根を張っていないが、柔軟性のある小さな生き物に結びつけるものがあります。汚染された海水を浄化する、微生物や貝類を想像させ、小さくとも持っている自然の力で、あるべき姿を取

り戻そうとする営みを連想します。

しかしながら現実に目をやると、理想の領域に入り込むべく日は先のように、日々の事務処理に試行錯誤の日々を送っています。

また、利便性・刺激もある都会より、自然を好む方で、いずれは田舎暮らしをと考えてはいますが、家族(妻、2人の息子と長女)には浸透していないようです。

今後も知力、より以上に体力をもって、CanDoの活動に少しでも貢献できればと思っていますので、よろしく願います。

3月31日、2012年度年次総会を開催しました

3月31日(土)に汐見地域活動センターで2012年度年次総会を開催しました。一般会員31名(うち表決委任者25名)が出席し、定足数を満たして成立。他に賛助会員2名が出席。久保内祥郎が議長を務めて、2011年度活動報告と2012年度活動計画、2011年度会計報告と2012年度予算をまとめて提案、説明し、個別に議決する方法で進行し、すべて承認されました。また、2012年度役員候補者14名の就任が承認されました。なお、予算案において、教室補修と関連する環境活動が始まることから、事業経費の分類を教育・保

健・環境保全の3分野ではなく、事業地—ミグワニ県・ムインギ東県／ナイロビ市スラム—でまとめる形に変更されました。

2012年度役員は次の通りです。

理事：川越朋子(新任)、國枝美佳、佐久間典子、永岡宏昌、中沢和男、藤目春子、明城徹也(以上再任)／監事：加藤志保、國枝信宏(以上再任)／準理事：竹直樹(前理事)、中塚史行(再任)、野木美佐子(前理事)。元準理事、満井綾子(新任)、矢澤宏之(再任)

理事の互選で、代表理事には永岡が再任されました。

フォト・レポート

ミグワニ県における教室建設と土壌保全

教室建設を行なっているイゼンゼ小学校と、土壌保全に取り組む2校の写真を紹介します

2011年5月 イゼンゼ小学校の役員会議



2012年2月 キルング小学校の基礎と壁



2011年9月 クワキエル小学校の基礎



2012年3月 イゼンゼでの建設作業



2012年2月 キルング小学校の基礎



2012年3月 キルングで保護者が保護工事



報告

◇組織運営

○3月31日、2012年度第1回理事会および2012年度年次総会を開催(p.6参照)。

◇国内活動

○5月、CanDo連続勉強会「ケニアの人々—その抱える課題と参加型開発協力の役割」をJICA地球ひろばで開始(2012年は全5回)。

・5月17日(木): 第1回「ケニアの植民地化と民族問題、大統領選挙に向けて」

・5月24日(木): 第2回「ムインギの人々の生活と援助、CanDoの関わり方」

・5月31日(木): 第3回「ムインギの小学校、住民参加による教室建設」

人の動き

○3月21日、インターン水口夏希が研修期間を終了して、ケニアから帰国。

○3月26日、永岡宏昌がケニアから帰国。

○6月7(～18)日、永岡がケニアに出張。

お知らせ

■CanDo連続勉強会

・第4回「エイズの基礎知識、ムインギでの課題と住民へのエイズ教育」

6月22日(金) 19:00～21:00

JICA地球ひろば セミナールーム303

(東京メトロ日比谷線 広尾駅から1～2分)

・第5回「ムインギの小学校でのエイズ教育・早期性交渉予防研修」

6月29日(金) 19:00～21:00

JICA地球ひろば セミナールーム403

参加費(資料代): 1回500円(会員は無料)

詳細はウェブサイトをご覧ください。

http://www.cando.or.jp/japan_n.html

■フェイスブック・ページを開設しました

広報ツールとしても注目されているフェイスブックにCanDoのページを開設。情報提供から始めて、写真の共有も計画しています。

<http://www.facebook.com/candoafrica>

■次号は、2012年9月発行の予定です。

CanDo アフリカ 2012年6月 [第59号] 2012年6月19日発行

発行人: 永岡 宏昌 編集人: 佐久間 典子

発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室

電話: 03-3822-1041

電子メール: tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト: <http://www.cando.or.jp/>

郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会